

初年度当初の家庭訪問について

1 はじめに

年度当初の家庭訪問について、留意点についてまとめました。

2

(1) 準備

- ゆとりある計画を立てる。
- 訪問時間を10分とすると、移動に5分とるなら、一人15分で計画を立てる。家が離れている場合もあるので、一人ひとりについて移動時間を確認しておく。
- 訪問計画は、保護者の都合を配慮しながら、移動距離(時間)も考えて、ゆとりのある計画を立てる。予備の時間(空き時間)を入れておくと良い。

(2) 懇談内容

- 担任から
 - ・4月から今日までで、子どもの良い姿や良いところを必ず伝える。
リフレーミングを使う。教室を走り回ったり、プロレスごっこしたりする。→活発である。元気がある。
 - ・課題が多い生徒については、課題を伝えるとするならば、1つに絞る。
その課題に関わって、家庭ではどうかと尋ねる。
 - ・1年生では、保護者から学校での様子を聞かれることがある。
特別なエピソードがない生徒については、「特に困っている様子はなし、トラブルも聞いていない。スムーズに中学校生活に入れたと思います。」と伝えれば良い。
エピソードのある生徒はそれについて話をすればよい。しかし、悪い姿や課題をことさらいくつも伝える必要はない。伝えるとすれば、その生徒にとって一番の課題を伝える。この課題に関わって、家庭での様子を伺う。保護者と共にこの課題を解決していきたい旨を伝える。
- 保護者から
 - ・家での様子はどうですか、と伺う。
 - ・困っていること、相談したいこと、聞きたいこと、伝えたいことはありませんか、と問う。
言い方を変えることで、保護者から話を引き出すことができる。
- 学校での様子を伝え、保護者からの話もなければ、さっさと切り上げる。
- 保護者からの質問について分からなければ、学校に戻ってから、連絡することを伝える。嘘をついたり、ごまかしたりしない。
- 要望があったときは、担任判断で迷ったときは、学校に持ち帰ることを伝える。学年団、管理職と相談したのち、結果を必ず保護者に伝える。

(3) 懇談内容の記録

- 懇談した内容を記録しておく。
- 記録ノートの作り方(一人見開き1頁が理想である。)
- 何かエピソードがあれば、その都度、記録ノートに記載する。
- 懇談会を持つときは、事前に記録ノートを読んでおく。

(4) 当日

- 時間を守ること。
- 遅れて行くと、早く切り上げにくくなる。
- 交通事故に気をつける。
- 湯茶の接待は断る。
- 玄関で懇談をすることを基本とする。部屋に上がってしまうと、懇談時間が長くなることが多い。家庭環境が心配な生徒の場合は、この限りではない。ぜひ、家の様子を見ていきたい。
- どうしても、遅れてしまうことがある。10分以上遅れるようなら、訪問先に電話連絡する。

(5) その他

- 生徒を同席させるか。 → どちらでもよい。
 - ・生徒に聞かせたくない内容や話題があるなら、その時だけ、外させる。
 - ・保護者が話し出した内容でも、生徒に聞かせたくないと判断したら、保護者の話を止めて、生徒を外させる。
- 例:「お母さんと話がしたいので、〇〇さんは自分の部屋に行ってくれるかなあ。」

※親子のコミュニケーションを進める

- 「今日は 学校 どうだった？」 毎日、子どもに聞いてやってほしい。
 - 「別に」とか「普通」とかいった返事が繰り返されようとも、続けて欲しい。
 - 「特に困ったことはなかったということやね。」と返せば良いことも伝える。
- このやりとりは、親が子どものこと自分のことを気に掛けていることを発信することになる。